

第1学年 算数科学習指導案

日 時 平成27年10月23日(木) 5校時

児 童 男子 17名 女子 17名 計34名

指導者 上川 哉江

1 個人課題 算数科における伝える力、学び合う力の育成

～子どもが主体的に取り組む算数的活動の工夫を通して～

2 単元名 かたちあそび (東京書籍 新しい算数 1年下 P14)

3 単元について

(1) 児童について

本単元は、子ども達にとって初めての図形学習である。日常の遊びの様子を見ると、積み木や折り紙など、形に着目した遊びに興味を示す子は少ない。「真四角」「長四角」といった用語についても漠然とした理解であり、入学後「初めて聞いた。」という子も多い。以上のように、子ども達の身の回りの図形に対する知識は決して多いとはいえない。このような子ども達の実態を踏まえ、本単元では図形への興味関心をもたせるとともに、図形に対する認識の芽を育てていくことが重要である。

(2) 教材について

学習指導要領 第1学年の目標(3)は、「具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする」ことである。本単元では、身の回りにあるいろいろな形に着目させ、それらを同じ仲間同士に分類する活動を行う。箱を積み上げたり、筒やボールを転がしたりする活動を通して形の機能を追求することにより、その特徴をとらえさせていく。

ここでは、身の回りにたくさんある形として、箱や筒、ボールなどの立体を取り上げる。例えば、高く積み上げる活動を行うことによって、積み上げやすい形、積み上げにくい形が明確になる。また、どの向きに積み上げれば高くなるかということや、どの順番で積み上げていけばよいかということを考えることによって、今まで漠然と見ていた身の回りのものの形をいろいろな角度から見直すことにもつながる。このような活動を繰り返し行うことで、子ども達は形の特徴をとらえていく。

学習では、形の特徴や機能をとらえるための遊びを数多く体験させたい。その過程において、子ども達がとらえた特徴や機能をいろいろな言葉を使って表現させていく。用語については、子ども達が自分の考えを表現するために用いた言葉を生かしつつまとめていくようにしていきたい。

本単元での学習は、第19単元「かたちづくり」での平面図形の基礎的理解、さらには第2学年における三角形・四角形概念形成及び性質の理解へと発展していく。

4 本時の指導 (3/5時)

(1) 目 標

身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能をとらえ、分類することができる。(技能)

(2) 個人課題や共通課題との関わり

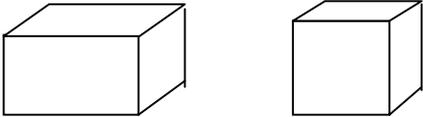
学級の子ども達は、語彙が少なく、なかなか自分の気持ちを友だちや教師に伝えられないでいる

ことが多い。また、些細な躓きや失敗を恐れ自分の考えを發表しない子もいる。算数科においても、計算練習には熱心に取り組むが、考え方や意味理解は充分ではなく、学び合いが深まらずに終わってしまう傾向が見受けられる。このような実態を踏まえ、子ども達が自分の考えを伸び伸びと表現できるようにすること、算数的なよさに触れ、算数を学習することの楽しさを味わうことができるようにすることをねらいとし、本時の授業においては、以下のことに重点を置き授業を行っていく。

- ① 子ども達が意欲的に取り組めるよう、「なかまわけ」「かたちあて」の活動を工夫する。
- ② どの子も自分の考えを發表できる場として、少人数グループでの学び合いを導入する。
- ③ 少人数グループでの学びを生かし全体の学び合いが進められるよう、発問を工夫する。

(3) 展 開

段階	学習活動	指導の手立て
導入 8分	<p>1 前時想起 前時で行った形作りの活動を想起する。</p> <p>2 課題把握 本時の学習課題をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>なかまわけを しよう。</p> </div>	<p>○前時に出された、形の特徴や機能を表すことばを確認する。</p> <p>○本時は、これまで集めた箱などを、似ている形同士分類する活動に取り組むことをとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★☆視点1 (課題解決への意欲) 実物を提示しながら、箱の形を分類していくことへの意欲を高めていく。 ・学習内容に興味をもち、進んで「なかまわけ」に取り組もうとしている。</p> </div>
展開 32分	<p>3 見通し 結果の見通しをもつ。</p> <p>4 課題解決 (1) 「なかまわけ」の進め方を確認する。</p> <p>(2) グループごとに、「なかまわけ」に取り組む。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>○いくつのなかまに分けられそうか、予想する。 ・ 3つ 4つ 5つ …</p> <p>○箱の形の「なかまわけ」は、『大きさ』『色』『材質』『位置』ではなく、形のもつ特徴や機能に着目し分類していくことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★☆視点2 <自分の考えを伝える, 学び合う> グループごとに、形の特徴や機能に着目し「なかまわけ」を行っていく。自分の考えをもつことができない子には、前時に出された箱の特徴や機能を表すことばをもとに考えるよう、助言する。</p> </div>

	 <p>(3) 「なかまわけ」した形に名前を付ける。</p> <p>(4) 「なかまわけ」の結果について、学び合う。</p> <p>5 「なかまわけ」の結果をまとめる。</p> <p>6 「かたちあて」ゲームを行う。</p>	<p>・「なかまわけ」の根拠を明確にしなが 自分の考えを説明することができる。</p> <p>○分類した形に、それぞれの特徴や機能に 応じて名前を付けていく。</p> <p>★☆☆視点2（学び合う） グループごとに「なかまわけ」の結果を 発表させ、全体で学び合わせる。 ・自分たちと他のグループの分類の仕方の共 通点や違いを、比較しながら聴いている。 ・友だちの考えのよさに気づき、共感的に 学び合っている。</p> <p>○特徴や機能をもとに分類した結果を確認す る。 ○結果については、子ども達から出されたこと ばを尊重しながらまとめていく。 「はこのかたち」「つつのかたち」「ボールのか たち」など。 ■身の回りにあるものの形について、概形や機 能、特徴をとらえ分類することができたか。 ＜発言・観察＞ ○本時の学習を生かし、「かたちあて」ゲームに 取り組む。</p>
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>7 振り返り 本時の学習について、振り返る。</p> <p>8 次時の予告</p>	<p>★☆☆視点1（学ぶ喜びを味わう） 本時の学習を振り返り、自他の頑張りを 認め、充実感や満足感を味わわせる。 ・自分の頑張りが友だちのよさを認め、進 んで学習感想を発表している。</p> <p>○次時は、箱を形成する面の形に着目し学習す ることを確認する。</p>

★ 個人課題 ☆ 共通課題 ■ 評価 ○ 指導の手立て ・ 予想される児童の考え